

ファイル共有ソフトの特徴

CCIFでは、2014年現在、Winny、Share、BitTorrent、Gnutellaの4種類のファイル共有ソフトについて啓発メールの送付対象としています。それぞれのファイル共有ソフトの特徴は以下の通りです。

Winny、Winnyp

Winny、Winnyp(ウィニー、ウィニップ)は、ファイルの検索、転送すべてをP2Pで行うピアP2P。利用者(IP)のほぼ100%を日本が占める。ファイルのダウンロードと同時に共有(アップロード)状態となる。ソフトウェアは「Winny」「Winnyp」。

Share

Share(シェア)は、ファイルの検索、転送すべてをP2Pで行うピアP2P。利用者(IP)のほぼ100%を日本が占める。ファイルのダウンロードと同時に共有(アップロード)状態となる。ソフトウェアは「Share」のみ。

Gnutella

Gnutella(グヌーテラ)は、ファイルの検索、転送をすべてP2Pで行うピアP2P。世界的に利用者が非常に多い。通信プロトコルが公開されているため、互換ファイル共有ソフトが多く、日本で利用されている主なソフトウェアには、「LimeWire(ライムワイヤ)」、「Cabos(カボス)」などがある。ファイルのダウンロードと同時に共有(アップロード)状態となる。

・LimeWire



・Cabos



BitTorrent

BitTorrent(ビットトレント)は、ファイルの検索にはネットワーク外部のTracker(トラックー)を利用するハイブリッドP2P。世界的に利用者が非常に多い。通信プロトコルが公開されているため、互換ファイル共有ソフトが多く、日本で利用されている主なソフトウェアには、「BitComet(ビットコメット)」、「μTorrent(マイクロトレント/ミュートレント)」などがある。ファイルのダウンロードと同時に共有(アップロード)状態となる。

・BitComet



・μTorrent

